

地域活性化事業交付金

活用事例集



相模原市 緑区

目 次

地域活性化事業交付金とは	1
--------------	---

橋本地区

1 おもちやの広場による多世代交流	3
2 コミュニティカフェ（地域食堂）	6
3 福祉カーニバル in 橋本	8
4 健康づくり普及活動運動	10
5 はしもとクリーンマップ作成事業	12
6 自転車マナー啓発事業	14

大沢地区

7 大沢地区自治会加入促進事業	16
-----------------	----

城山地区

8 SHIROYAMA NATURE PROJECT	18
9 あつまれ～ しろやまっこ！	20
10 しろやま土曜寺子屋活動	22
11 みんなの津久井湖夏祭り	24

相模湖地区

12 阿津さくら保全・活性化事業	27
13 小原地区元気いっぱい花いっぱい環境整備事業	39
14 里山未来デザインプロジェクト@石老山	31

藤野地区

15 藤野地区自治会活動啓発事業	34
16 藤野の谷洗い	36
17 FUJINO BAMBOORIUM	38
18 FUJINO コミュニティ・フォト・プロジェクト	40
19 藤野お惣菜地美恵	42
20 赤沢環境整備プロジェクト	44
21 葛原地域環境整備事業	47
22 しのばら園芸市	49

地域活性化事業交付金とは

■地域活性化事業交付金とは、より多くの市民の参加と協働による地域の活性化を目指し、本市のまちづくりを進めてきた22の地区で展開される市民による自主的な事業に対して交付される交付金です。

■対象事業

- | | |
|----------------------------------|-----------------|
| ・地域の防災・防犯に関する事業 | ・地域福祉の増進に関する事業 |
| ・地域の保健・健康づくりの増進に関する事業 | ・産業や観光の振興に関する事業 |
| ・環境の保護・保全に関する事業 | ・青少年の健全育成に関する事業 |
| ・地域の文化・伝統の振興に関する事業 | ・生涯学習に関する事業 |
| ・地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業 | |
| ・区が推進する重点事業 | |
| ・その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業 | |

■優先的な交付対象事業

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ・自治会への加入促進 | ・地域における公共的な活動の担い手育成 |
| ・公共的な活動への参加者増加 | ・地域の公共的な活動団体間の連携強化 |
| ・まちづくり会議が提示した地域課題の解決 | |

■交付対象とならない事業

- | |
|---|
| ・政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業 |
| ・交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業 |
| ・政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業 |
| ・調査、研究を主たる目的とする事業。ただし、地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く。 |
| ・第三者への事業促進を求める事業 |
| ・前各号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める事業 |

■交付金の申請者は、原則として交付金の趣旨に合致する事業を行う5人以上の構成員で組織される団体とします。申請にあたっては、事業を実施する地区の各まちづくりセンターへ事前にご相談ください。

■当該年度の事業実施期間は、4月1日から翌年3月末までとします。また、同一の事業に継続して交付する場合については、令和8年度より最大5年を限度とすることとなりました。4年目以降の交付金の交付率は、4年目は4分の3以内、5年目は2分の1以内とします。

■ 交付金は、次の経費を交付対象とし、その交付率は10分の10以内とします。

- ・ 事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等
- ・ 事業を行う上で必要な食糧費（交付対象者の構成員に対するものを除く。）、備品購入費、施設使用料、備品借上料等
- ・ 事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等
- ・ 事業を行う上で必要な委託費等
- ・ イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等
- ・ 講演会等の講師に対する報償費
- ・ 研修会の旅費等、研修に要する経費（交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く。）
- ・ その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの

※備品（物品等で1件1万円以上の財産）にかかる経費の交付率は、対象経費の3分の2以内となります。

おもちゃの広場による多世代交流

橋本地区

団体名：おもちゃの広場はしもと

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

地域の交流が少ないのがさびしかったので、アットホームで多世代交流ができる遊び場を提供したいと「おもちゃの広場はしもと」を開き3年目になります。徐々に幼児の親子の参加者が増えてきましたが、思っていたほどクチコミで拡がらず残念です。今は、クチコミで横に拡がるというよりSNS等で情報が広がるようです。SNSは中範囲の情報発信が得意で、ピンポイントでは伝わりにくいかもしれません。そんな中、自治会の掲示板の情報発信力が強く、参加者の大半が自治会掲示板のポスターからでした。次年度もポスターの掲示で情報発信をしていこうと思っています。



シニアの参加者も徐々に増えてきましたが、シニアの方は1人での移動に困っていらっしやいます。そこで、シニアの方が集まる「デイサービス」、「老人会」などに出張して「ボードゲーム」で遊ぶことにしました。とても楽しんでいただいているのですが、回を増すごとに同じ「ボードゲーム」では飽きられるのではと危惧しています。

小学生以上のお子さんにぴったりのボードゲーム、カプラ積木、将棋の藤井棋士で有名になったキュープロ等を用意して待っていますが、参加者が少なく残念です。習い事、クラブ活動で来られないため、児童館に出張したいと思っています。

2 事業の目的

多世代で交流する場が地域に少ないと感じていました。

子どもとその親御さんは、シニアと遊んでゆっくりした時間でホッとしてください。シニアの方は、子ども達の元気をもらってください。小学生以上のお子さんは、遊びの幅を広げてネットに依存しない遊びを楽しむ感性を磨いて欲しいです。

おもちゃの広場を自治会館で開催することで、自治会を身近に感じてもらい、意義を伝えていきたいです。

3 事業の実績

おもちゃの広場も3年目に入って、社会福祉協議会などのご縁で多種多様な出会いがあり活動が広がりました。

自治会館での「おもちゃの広場はしもと」も参加者が安定してきて、12回開催して平均20人の参加者で楽しく多世代交流を行いました。国産檜木の箸作りは大人に人気で、子供だけでなく大人にも楽しんでもらえました。夏には木工作家の Sakai さんを招いて「木ン



令和7年度 緑区 地域活性化事業交付金 活用事例

魚すくい」ワークショップで大人も子供も楽しみました。クリスマスには「スノーマンマリオネット」ワークショップで盛り上がりました。

生活リハビリクラブへは年に8回赴いて、123人の参加者（平均15人）でゲームを通して遊んでリフレッシュしていただきました。皆様ゲームで遊ぶ事に慣れて、楽しんでいただき、「ゲームってボケ防止になるわよね」と楽しんでくださる方や、リハビリでは動かさなくても、ゲームだとなついつい動かす方もいてリハビリを促しています。

6月1日の「福祉カーニバル」では、大勢の方におもちゃ等を紹介しました。小学生にはキュープロ、スフィアボール、シャラシャラリングが大盛況でした。

9月25日の「ふれあいサロンだるまさん」に呼ばれ、手作りおもちゃのプレゼントを携え、木のおもちゃの良さを5組の家族にお伝えしました。

10月15日の公民館主催「スマイル講座」では、5組の家族に木のおもちゃの良さと「スマホゲームの危うさ」を皆様に問うことができ、アナログ遊びを楽しんでもらいました。

10月29日の老人会主催「イキイキクラブ」では、ボードゲームを通してシニアと保育園児の交流をしました。（シニア20人、保育園児15人）

2月22日の「子育てサロンほっこり」では、人気の手作りおもちゃ「マリオネット」を2組の家族と作りました。「子育てサロンほっこり」は、インクルーシブな活動をされていて、これからも連携しながらインクルーシブ遊びの場を作っていこうと思います。

2月23日の社会福祉協議会主催の「多世代で楽しむパネルシアターとおもちゃの広場」では、大勢の参加者（大人約25人、子供25人）で盛り上がりました。5連けん玉等は、大人も子供もムキになって遊んでいました。

4 事業の成果

おもちゃの広場も認知度が高くなりました。その上で社会福祉協議会の協力を得て、様々な場へ出張広場を展開することができ、幅広い人々との交流や楽しい時を共有でき、多くの方に喜ばれる活動ができました。

5 事業実施団体による自己評価

自治会館での活動も安定してきました。シニアスタッフの対応が素晴らしく良くなり、来場者に喜ばれていて、スタッフの皆様には感謝しています。

「イキイキクラブ」でのシニアの方が園児を見る目が喜びで溢れ、園児がシニアを応援する姿に感動しました。

インクルーシブな活動を目指していたので、「子育てサロンほっこり」との活動をこれからも協力していきたいと思っています。

6 今後の展望

まちづくりセンターのご支援により、無事3年運営できました。これからは地道に、より地域の人々とおもちゃを通して交流を深めたいと思っています。

この活動を通して、シニアと子供さんが出会う機会が少ない事に改めて気がつきました。



令和7年度 緑区 地域活性化事業交付金 活用事例

今後も、多世代交流の大切さを地域の皆様と分かち合えるような活動をして参ります。



コミュニティカフェ（地域食堂）

橋本地区

団体名：かまどカフェ

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

二本松地区に住む高齢の方に話を伺うと、「行動範囲も狭くなり、他者と接する機会が少ない」、「食事は一人でとることが多い」、「近くで食事等を楽しむ場所がない」という意見をいただきました。地域食堂をやってみたいと有志が集まりましたが、開催する場所がなく、小規模多機能ホーム「ななかまど」の駐車場を借りることになりました。

2 事業の目的

地域の集いの場を設け、多世代の方々が気軽に参加出来る場所を作ること、食を通じて、地域の方々との交流を深め、活動することにより、地域との交流・結束を高めていくことを目的としています。

3 事業の実績

毎月第2木曜日の11時30分から13時に、地域の方々の集いの場所として地域食堂「かまどカフェ」を開催し、昼食とおやつをワンコイン程度の価格で提供しました。天候にも恵まれ毎月開催することができました。毎回30人前後の来客があり、提供する食事は40食を超えることが多くなりました。高齢者の参加が多く、リピーターが8～9割で女性が大半を占めています。季節や天候によって多少の変化はありますが、3～4割の方がその場で食事やお喋りを楽しまれ、6～7割の方は食事を持ち帰りされています。お喋りを楽しみに来られる方も多く、お友達やご家族を誘って来られる方もいました。なじみのお客様で足の調子が悪い人には、配達も行いました。



さらに、毎月第4水曜日の13時から15時には、飲み物とおやつを提供する「プチかまどカフェ」も7回開催しました。

地域に根付いた活動を実施することができました。

4 事業の成果

食を通じた集いの場として、地域の中で認知され、活動が継続できました。季節を感じるもの、自宅ではあまり作らないものを意識しながら、メニューを考えました。



高齢者が多いものの、子育て世代のお客様も来られ、多世代交流の場にもなっています。お客様の中で身体や生活環境が心配な方は、相原地域包括支援センターと情報共有をするなど普段から声を掛け合える関係性も築けています。

また、地域で活動されている書家の方が「プチかまどカフェ」でワークショップを開いていただき、文化にふれる機会を作ることもしました。



5 事業実施団体による自己評価

屋外開催のため、天候や気温には左右されますが、毎月開催することができました。お客様同士が仲良くなり、かまどカフェを待ち合わせの場所として、食事やお喋りを楽しまれている姿は、開催する側として、一番の成果と感じています。

ボランティアスタッフの手が足りない時には、お客様が急遽手伝ってくださることもあり、運営側が地域の方から助けられていると感じることも多く、このような関係性が構築できたことに感謝しています。

お客様は、高齢者が多く、生活に不安を感じる方も少なくありません。かまどカフェスタッフの中には介護福祉士、調理スタッフ、ケアマネ、看護師、社会福祉士もおり、様々な視点から話を聞いたりし、高齢者支援センター等に繋げることもできると考えています。

今後も「のんびりと、無理なく、楽しく、美味しく」をモットーに、安心して年を重ねていけるまちづくりの活動を継続していきたいと考えています。

6 今後の展望

材料費が高騰する中、これまでと同じように運営していくことは楽ではありません。幸い、この活動に賛同し野菜などの食材を寄付してくださる方もおり、協力を得ながら出来る限り安価で食事を毎月提供できるように努力していきたいと考えています。

アンケートの結果では、ちらし寿司やコロッケ等の揚げ物、おはぎを望む声を多くいただきました。皆さんの声に応えられるような、季節を感じるメニューを心がけていくつもりです。

また、かまどストーブを使用し、防災を意識したアウトドアクッキングのワークショップも開催してみたいと考えています。

地域の皆さんが外に出かけるための場所として、お喋りするための場所として、地域における社会資源の一つとして、かまどカフェが存在できれば幸いです。



福祉カーニバル in 橋本

橋本地区

団体名：福祉カーニバル in 橋本実行委員会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

私たちは、以下の4つの目的を達成するために活動を行っています。

- ① 障害や介護を受ける方々が当事者として社会参加できる機会を創出したい。
- ② 橋本地区の福祉サービス事業者でどのような運営がされているか情報の公開が少なく、選択する時に当事者に公平な情報が行き届かない。
- ③ 年間通して、春先にはイベントが少ないことと、高齢者や障害者でも気軽に立ち寄れる小規模なイベントを開催したいと考えた。また、地域の福祉職員が在駐しているイベントを創ることで気軽に質問ができる環境を提供したい。
- ④ 子育て世代が多い橋本地区で実施することで、若い世代にも地域福祉に取り組んでいる事業者を知ってほしい。

2 事業の目的

介護保険サービスや障害福祉サービスがより地域に浸透することや、事業所同士ひいては事業者と市民同士で顔が見える関係づくりを図り、困りごとの相談がハードル低く、円滑に行えるように地域福祉の発展に寄与する。

また、このようなイベントを定期的に継続していくことで、小さな悩みや相談を考えた際に立ち寄りやすい地域づくりを実践していくことを目的とします。

3 事業の実績

昨年に続き、令和7年6月1日（日）にサン・エールさがみはらで第2回目の「福祉カーニバル in 橋本」を開催しました。来場者数は、前年比160%となり、イベントの認知度の広がりが見られました。

今回は、バレー企業や飲食店からの協賛を得ることができたり、橋本高校吹奏楽部を招聘し、演奏披露や学生ボランティアも多く参加することで福祉サービス事業者と地域団体との交流を深めることができました。

障害を持つ方や介護を受けている当事者がイベントでの役割を得ることもコンセプトとしてあり、参加者数は少なかったもののイベントメンバーとして活躍することもできました。

また、来場者として重度の障害を持つ方が家族と一緒に来られ、イベントを楽しむ姿や軽度の障害を持つ方が楽しんでいられる姿も見られました。



4 事業の成果



イベント当日は、福祉サービス事業者同士、他業態の企業が、イベントを通じて住民との交流を持つことができました。

また、障害を持つ方や介護を受けている当事者へ役割を創出することや、当事者本人及びその家族が気軽に来場できるイベントとして意義ある活動になりました。

5 事業実施団体による自己評価

事故もなく、昨年開催した1回目よりもイベント参加者、協賛企業、来場者それぞれ増加することができたイベントになりました。

6 今後の展望

令和8年度も「福祉カーニバル in 橋本」を開催したいと思っています。

次回は、さらにイベントに変化を加え、より多くの人、企業にアプローチできるように取り組んでいきたいと思っています。



団体名：健康づくり普及活動同好会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

人生100年時代、高齢者の認知症及び介護予防に関心が高まっていることから、脳の活性化と筋力低下予防の運動、食育と社会参加の機会を作り、併せて、足腰が弱くなりがちなため、転倒予防のための健康体操を行うものです。

事業を行うに当たっては、事業に賛同する方、自治会、老人会や地域包括支援センター（閉じこもり防止／講師要請等）との協調を図り、予防活動を展開していきます。



2 事業の目的

認知症（コグニサイズ）及び介護予防（フレイル）の周知と、これらを予防する健康維持運動を行い、健康づくりを目的としています。

3 事業の実績

「コグニ健康講座」で脳（頭）を使って運動するための正しい知識の講義と、正確な技術運動を習得することにより、認知症・フレイルの周知、転倒予防などを実施しました。

毎月第4金曜日13時30分～16時00分実施、各回とも「コグニ健康体操」を基本に認知症予防の替え歌、喜劇川柳の朗読、「もの忘れの進行を緩やかにするために！」と「フレイル予防」また「お口の健康（口腔ケア）」の専門講師による講義と実技講座の成果判定のため「体力測定」を実施しました。

4 事業の成果

1年目は延べ174名、2年目は237名（63名増）の参加者がありました。

「コグニ健康講座」の活動内容が周知されつつあります。次年度に向けて32名の応募があり、定員30名を超える申し込みがありました。会場が狭い感がありますが、希望した参加者全員を受け入れました。参加者は、「最初は大した事はない」と思っていますが、「コグニ健康体操」は全身運動で、また脳（頭）を使う運動に、さらに筋力運動も加わり全身が刺激され、終われば多少疲れはしますが、爽やかな気分になり皆楽しめています。

「次年度も継続して参加したいので、この講座を続けて欲しい」との要望もあり、この事業の一定の効果があったと思います。

5 事業実施団体による自己評価



令和7年度 緑区 地域活性化事業交付金 活用事例

健康づくり普及活動同好会の組織を結成し、地域活性化事業交付金を活用した事業も今回で2年目を終わりました。参加者も前回より63名多くなり、「コグニ健康講座」の活動が周囲に浸透しつつあると感じています。相原地域包括支援センター及び相模原市健康づくり普及員との協調体制は図られていて、特に相原地域包括支援センターは、保健師の実技指導や外部専門講師の派遣の要請を快く引き受けてくれていて、活動推進の協力に感謝しています。

事業の母体である相原森下自治会には、自治会館の会場使用や参加者の皆勤者に記念品を用意してくれるなどの対応に感謝しています。より多くの団体組織などとの協調を図ることができたことと、次年度も定員30名を超える参加者がいて安堵しています。

6 今後の展望

今後も活動を実践し、参加者が継続して自身の健康維持に関心を持ってもらえるように、体力測定の実施（一定期間運動を行って、自身の体力がどの位置にあるのかを自覚してもらう）や、参加者同士のコミュニケーションが図られるよう、楽しく運動ができる体制を構築していきたいです。



はしもとクリーンマップ作成事業

橋本地区

団体名： 橋本地区まちづくり会議 街の環境美化グループ

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

街のごみのポイ捨て問題について協議し、実態調査を実施したところ、地域で清掃活動をしている団体が多くあることがわかりました。実際に団体の清掃活動に参加して活動の必要性を実感し、多くの人に活動団体を知ってもらうとともに、参加者を増やしていくことが重要と考えました。

2 事業の目的

団体が行っている街の清掃活動を知ってもらうことで、ポイ捨ての抑止及び清掃活動の参加者増加に役立てることを目的とします。

3 事業の実績

活動団体の活動日・活動時間・活動場所を記載したはしもとクリーンマップを作成しました。

作成したクリーンマップは、自治会、小・中学校、商店街、公共施設等に配布し、回覧・掲示を行いました。

4 事業の成果

各団体が行っている街の清掃活動を周知することで、ポイ捨ての抑止及び清掃活動の参加者増加、また清掃活動を通して顔見知りの関係が築かれることで、自治会への加入促進に貢献できました。それと公民館等の公共施設へ掲出することにより街美化の啓発活動に貢献できました。

5 事業実施団体による自己評価

街の環境美化は魅力あるまちづくりには欠かせない活動であり、作成したクリーンマップは、参加者の増加や地域コミュニティ維持に役立つものと考えます。

6 今後の展望

地域の課題として街の環境美化運動を継続していく中で、クリーンマップを活用し、より効果的な啓発を行う必要があると考えております。また、事業の継続には地域の皆様や行政の力をお借りする必要性があると感じています。



令和7年度 緑区 地域活性化事業交付金 活用事例



自転車マナー啓発事業

橋本地区

団体名： 橋本地区まちづくり会議 自転車マナー向上グループ

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

自転車の信号無視やイヤホンの装着、ながら運転等基本的なルール（モラル）が守られていない課題がありました。2026年4月からの自転車の交通違反に対する「青切符」の導入により、自転車運転中の罰則が強化されることから、自転車マナーの向上を目的とした啓発活動を行う必要があると考えました。

2 事業の目的

自転車運転中の新たな罰則について、青切符対象の違反行為をいくつかピックアップし、自転車の罰則が強化されることを周知する内容のチラシ・ポスターを作成し、自治会加入世帯、小・中学校、高校、公共施設等に配布・掲示することで、地域の課題として認識してもらい、自転車マナー向上に関する啓発を行うことを目的とします。

3 事業の実績

「自転車の罰則強化」をテーマとした自転車マナー啓発を呼びかけるチラシ・ポスターを作成しました。
作成したチラシ・ポスターは、橋本地区内の小・中学校、高校の全児童、生徒へ配付し、自治会へ全戸配布、公民館等の公共施設でのポスター掲示を行いました。



4 事業の成果

自転車の罰則強化に関する啓発チラシ・ポスターを作成し、自治会加入世帯への各戸配布、橋本地区内の小・中学校・高校への配布、自治会、公民館のポスター掲示板へ掲示を行ったことにより、自転車マナー向上の啓発に貢献できました。

5 事業実施団体による自己評価

自転車マナーは、地域の交通安全に大きく影響するものであり、作成したチラシ・ポスターは、自転車マナー向上の啓発により一層の効果があったと思います。



6 今後の展望

地域の課題として交通安全活動を継続していく中で、交通安全啓発チラシを活用し、より効果的な啓発を行う必要があると考えております。また、事業の継続には地域の皆様や行政の力をお借りする必要性があると感じています。



事業名：大沢地区自治会加入促進事業

大沢地区

団体名：大沢地区自治会連合会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

大沢地区の自治会加入率は年々減少の傾向にあり、令和7年4月1日現在においては30.38%と非常に低い状況となっている。このため自治会活動の低下とともに地域コミュニティの希薄化や安全・安心な生活が危惧され課題となっている。

2 事業の目的

自治会加入率を向上させ、地域コミュニティの活性化、安全・安心なまちづくり、住みよい環境の整備等により、さらに地域の活性化を図ることを目的とする。

3 事業の実績



横断幕

自治会加入促進のため自治会長自らがスローガンやデザインを考案した横断幕・立て看板・のぼり旗を作製し、大沢地区全自治会へ配付し、お祭りなどのイベントで掲示しPR活動に活用した。

また、自治会加入促進のラベルを貼った携帯トイレを大沢地区総合防災訓練参加者への配布や、新規自治会加入者へ配布することで災害時における自治会

が果たす役割の理解を求めた。



立て看板



のぼり旗



4 事業の成果

大沢地区内全域で横断幕・立て看板・のぼり旗を掲示することで、自治会活動の認識を深めるきっかけとなり、会員離れや新規加入に繋がることが期待される。

5 事業実施団体による自己評価

横断幕・立て看板・のぼり旗の作製に当たり、自治会活動の役割や加入促進の呼びかけなど自治会長自ら意見を出し合い相互に認識を深めることができた。こうした物品を各自自治会のお祭り等のイベントで掲示することにより自治会加入促進に向け取り組むことができた。

6 今後の展望

今後も、自治会での日常的な掲示や、おおさわ桜まつり等の各種イベント時などでの掲示・配架を行うことで加入促進のPR活動の啓発を継続して行っていきたい。



事業名：SHIROYAMA NATURE
PROJECT

城山地区

団体名：SHIROYAMA NATURE PROJECT

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

城山地区には、原発事故で被災した東北3県（福島、宮城、岩手）の方々にリフレッシュの場を提供するための安価な宿泊施設「GAYAGAYA」がある（運営を維持するため、一般の宿泊客も受け入れている。）。

「GAYAGAYA」が宿泊事業や地域交流を行っていく中で、「城山地区は、自然資源が豊かで、また都会からのアクセスも良いと知った。また、登山客数世界第1位を誇る『高尾山』も近く、観光地域としては極めて優秀な場所であるが、知名度がそれほど高くないように思われる。もっと城山の魅力を発信していきたい。」との思いが強くなった。

その思いを知った地域住民や「GAYAGAYA」経営者等により、SHIROYAMA NATURE PROJECTを設立し、城山の自然体験事業や観光パンフレット等により魅力の発信をしていくこととした。



2 事業の目的



SHIROYAMA NATURE PROJECTでは、このように都会からのアクセスも良く自然が豊かで、神奈川県 대표적인観光地である箱根や小田原等にも劣らない城山を、地区の内外にアピールしたい。

また、団体の活動により地元に恩返しをし、観光地としてはまだまだ知られていない城山地区への観光客の誘致に貢献していきたい。



3 事業の実績

①全6回の自然体験ワークショップを実施し、城山の自然を活かした作品作りや、都会の喧噪から離れ、参加者同士が自然の中で交流をする場を提供できた。

②城山の観光パンフレットを作成し、当地区の四季折々の観光スポットや飲食店等を紹介し、イベント等で配布した。

4 事業の成果

①当プロジェクトは地区の内外の方々に城山の魅力の発見していただくことが目的だったが、自然体験ワークショップには八王子市、厚木市、東京都から広く集まり、多くの方々に魅力を伝えることができた。

②城山の観光パンフレットを作成した。城山地区の数か所のカフェやレストランを掲載したり、『みんなの津久井湖夏祭り』で完成したばかりの観光パンフレットを配布するなど、城山の魅力をアピールできた。



5 事業実施団体による自己評価

①自然体験ワークショップには、相模原市以外にも八王子市や厚木市からも参加者があった。市内外の方々に、ワークショップを通じて城山の魅力や自然に触れる機会を提供できた。

②城山の観光地を掲載したパンフレットを作成し、城山観光協会、「みんなの津久井湖夏まつり」、城山の飲食店等で配布及び配架した。ワークショップ等の参加者がパンフレット掲載店舗に足を運ぶ等、城山地区のPRに繋がった。

6 今後の展望

①城山観光協会の電動レンタサイクルプロジェクトとコラボさせていただき、観光パンフレットに追記できたら、またひとつ城山の魅力を楽しめるスポットになれるのではないかと考えている。

②SHIROYAMA NATURE PROJECTを継続し、さらに参加者同士の交流を深めていき、より地域の方々にも今まで以上に参加していただけるような広報活動にも力を入れていきたい。



事業名：あつまれ～ しろやまっこ！

城山地区

団体名：城山地区まちづくり会議 子どもたちの主体性を育む地域づくり部会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

かつて、子どもたちの社会性の基礎となる「人との関わり」は、近隣の子どもの交流や、家庭の中でのきょうだい同士の交流の中で、遊びを通して自然に身に付いてきた。大きい子どもは小さな子どもをいたわり、守る。小さな子どもは大きな子どもに感謝し、憧れる。そんな関わりの中で、ゆっくりと育まれてきた。

しかしながら、地域の人間関係の希薄化が進み、近所づきあいや親戚づきあいも減少し、少子化によってきょうだい数や地域の子どもの数が減ってくる中で、子どもたちが「人と関わる」ことに自然に慣れ、「人と関わりたい」という思いを自然に感じとっていく、そんな場も機会も失われてきているように感じられる。

こうした状況の中、城山まちづくり会議では部会を設置し、「子どもたちの主体的・自主的な取り組みを通して子どもたちの異年齢・世代間の交流を図り、それにより子どもたちの社会性や主体性を育ていけるような地域づくり」をテーマに検討を進めてきた。



2 事業の目的

近年、少子化の進行による子どもの減少に伴い、地域での同年齢・異年齢のさまざまな子ども同士のふれあいが少なくなり、地域における多様な子ども集団の形成が難しく、城山地区のほとんどの地域は育成会の活動が縮小傾向にあり、子どもの社会性などの育成面で困難な状況が生じている。



このような状況下において、子どもたちが参加しやすい事業を実施することによって世代間・地域間交流を進めると共に、子どもたちの意欲を引き出し、より主体的に活動できるような仕組みづくりを目的とする。

3 事業の実績

- ・モルック体験会を城山公民館、城山もみじまつりで実施した。
- ・「あつまれ～ しろやまっこ！モルック大会」を実施した。当日はスタッフ含めて74名が参加し、モルックを活用した異年齢、世代間交流を図ることができた。

4 事業の成果



令和7年度 緑区 地域活性化事業交付金 活用事例

・昨年度の子どもたちの要望を受けて今年度もモルックを実施することにしたが、今年度は事前申し込みなしの当日参加で、対象も「どなたでも」として体験会、大会を実施した。



それにより、年少の子どもから80代まで幅広い世代が参加して、モルックを楽しみながら自然に交流できたのがとてもよかった。

・大会の実施にあたり、地元の川尻小学校の「川尻小6年無限プロジェクト」にチラシの図案作成を依頼して、チラシとポスターを作成した。小学校6年生が初めて当日参加してくれたのも、その成果ではないだろうか。

・ルールの確認、ゲームを進める上での担当、片付けなどを各チームに任せたので、子どもたちが自分のできることを積極的に行っている姿が多く見られた。また、どのチームも年代に関係なく作戦を立てたり応援しあったりと、コミュニケーションを盛んに取っていた。

5 事業実施団体による自己評価

・申し込みなしで誰でも参加できるやり方で体験会、大会を実施したのはとても良かった。特に大会は多世代の交流が自然にできていた。

・体験会は雨天により城山公民館で室内用のモルックを用いて実施したが、ゲームは大変盛り上がり、その後の振り返りはとても落ち着いた雰囲気でお互いの話をよく聞きあうことができた。

・事業には、法政大学の学生以外にも県立相模原城山高校の生徒会の生徒たちが参加してくれて、たいへん意欲的に準備から活躍してくれた。特に、子どもたちは年齢が近い高校生や大学生ととても仲良く楽しそうにしている、若い世代が多く活気にあふれていた。

・過去2回の事業では、委員など大人の人数が多いため子どもに任せることができなかったが、今年度の大会では見守って任せることができていた。

6 今後の展望

モルックの特長である多世代交流が子どもも含めてたいへん活発に行われてきているので、今後は城山体育振興協議会と連携・共催の形をとりつつ、運営の移行を目指す。また、小学校との新たな連携を模索していく。



事業名：しろやま土曜寺子屋活動

城山地区

団体名：しろやま土曜寺子屋実行委員会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

子どもたちは、学校での学習等を通して、もっと広く深く学習してみたいと思ったり、逆に苦手意識を持つようになっていたりしていると思われる。

そこで、そういう子どもたちに対して地域の大人ができる支援に取り組みたい。また、地縁的なつながりや共通の価値観が希薄化している現状の中で、地域のコミュニティづくりの必要性が求められるので、地域の絆づくりの一端を担いたいと考える。



2 事業の目的

「地域の子どもは地域で育てる」という考えのもとに、地域の子どもたちが進んで学習しようとする場と機会を提供し、地域の大人が子どもたちに寄り添いながら学習を支援するという具体的な活動を通して、子どもたちと子どもたちに寄り添う大人とのコミュニケーションづくりをする。



また、子どもたちに寄り添う大人同士のコミュニケーションづくりなど希薄になっている地域の絆づくり、人と人との関係性、すなわち地域のコミュニティづくりを促進することを事業の目的とする。

このことは、2年目になっても変わらず本事業の目的とし、更にこの活動を広め、深めていきたいと考える。

3 事業の実績

令和7年6月から令和8年3月まで、毎週土曜日の午前中2時間城山公民館を会場に寺子屋活動を実施することができた。また、ボランティアには常時数名の参加があり、子ども一人ひとりに丁寧に対応できる環境を整えることが出来ている。そのため、事業の目的である、地域の子どもたちに子どもたち自身が進んで学習しようとする場と機会を提供することが可能となっている。

4 事業の成果



令和7年度 緑区 地域活性化事業交付金 活用事例

ボランティアの大人たちが、地域の子どもたち一人ひとりに寄り添いながら学習の支援をすることで、参加する子どもたち同士や子どもたちとボランティアさらにボランティア同士のふれあいやコミュニケーションづくりが着実に深まっている。

5 事業実施団体による自己評価



参加する子どもたちの中には学習の苦手な子どもたちもいるが、子どもたちが自身のペースに合わせて学習を進めていくので、継続して参加する子どもが着実に増えてきている。



また、子どもたちに寄り添いながら進めることで、無理なく継続できることを評価したい。。その上、子どもたちとの関わり合いから子どもたちの話し相手となることで、良き相談相手の存在となっていることも評価したい。

6 今後の展望

①昨年同様に年度初めに城山地区の小学校へ依頼し、保護者とその子どもたちへ寺子屋活動の案内を配付させていただいてスタートしたが、次年度も年度初めに同様に案内を配付させていただいて、活動の周知を更に図りたい。

②併せて地域内に寺子屋紹介のポスターを自治会や各事業所などに掲出をお願いしたが、次年度も同様をお願いし、周知を更に図りたい。



事業名：みんなの津久井湖夏祭り

城山地区

団体名：みんなの津久井湖夏祭り実行委員会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

①津久井湖城山公園（水の苑地）は城山地区の中で代表する風向明媚な観光スポットであるが、地区外の方の知名度が低く、津久井湖城山公園（花の苑地）に比べ観光施設が無いことや、イベントも少ないことから訪問客が少ない。このことから水の苑地を活用したイベントを実施することにより、地域の魅力を発信し、知名度の向上を図り、地域の活性化につなげていく。

②旧津久井郡は深刻な人口減少と高齢化が進んでいることから、新たな魅力を創出する必要がある。

③城山地区では各地域において様々なイベントが開催され、多くの地域においてスタッフの高齢化が進み、イベントの縮小や廃止がおきている。このことから、若手のリーダーや地域における公共的な活動の担い手の育成が必要である。



2 事業の目的



①本イベントを通じて津久井湖（水の苑地）とその周辺の美しい里地里山の魅力と城山地区の伝統文化を知っていただく。

②神奈川の水がめとなった津久井湖の歴史を紹介し、後世に伝える機会とする。

③このイベントは若者が中心になって、広くボランティアを募り市民参加型のイベントを目的としている。（実行委員長が20代男性、実行委員会メンバーには女性が多い）。また大学生のボランティアも昨年は95名と多かった。本イベントを通じて若手スタッフが育ち、地域における公共的な活動の担い手となって活動していくことを目指す。

④本年度は水の苑地の下の円形の芝生のところにやぐらを組み、盆踊り大会を実施する。実施している自治会に盆踊りの指導者を紹介していただき、当日の踊りの指導や踊り手をお願いする。子どもからお年寄りまで踊りの輪に入っていただき、今回は300人程度の参加を期待し、将来はみんなの津久井湖夏祭りが夏の風物詩となることを期待している。

⑤出店は一般公募とするが、地元の飲食店に声掛けし優先的に出店していただき、地域の経済活動の活性化の一助となることを目指す。

⑥本イベントを城山のイベントから緑区全体のイベントとなるよう城山地区以外の出展



令和7年度 緑区 地域活性化事業交付金 活用事例

者、イベント参加者に広げていく。また城山地区以外の団体にも本イベントに参加していただき、ともに協力し合いながら地域の活性化を目指す。

3 事業の実績



- ①来場者数：8, 500人
- ②当日のボランティア数：95人
- ③みんなでごみ拾い：51人
- ④出展者数：テント出店14店、キッチンカー出店14店、企業・縁日出展14店
- ⑤ステージ参加団体：10団体
- ⑥スカイランタン：ランタン130個、灯ろう50個
- ⑦ビンゴ大会：300名参加
- ⑧花火大会：150発（5分）

4 事業の成果

② 毎年新たな挑戦をしていることもあり、年々来場者が増え協賛者も増えている。

②今年度は市民祭りを強く意識し、各地区自治会の盆踊りの指導者の方に協力をいただき新しい企画として公園中央にやぐらを組み、「みんなで盆踊り」を開催した。300人近い方々に踊りの輪に入っていただき盛り上がった。

③実行委員会に法政大学より2名、桜美林大学より2名が入り、従来の参加型から参画型へ、一方、法政大学のボランティアが40名、桜美林大学から55名の総勢95名がボランティアとして参加、当日の会場設営・警備から出店と協力していただいた。

④重要警備ポイントに警備員を22名配置し、公園内の警備にはボランティアの方の配置を増やして安全を確保することが出来た。また城山高校、安西興行駐車場をお借りし、駐車可能台数を増やし、かつ川尻小学校から近隣の城山高校までのシャトルバスを定期運行することにより、交通渋滞を回避できた。

5 事業実施団体による自己評価

8, 500人の来場者があり、その結果、会場は終始盛り上がりを見せた。

前回の最重要課題であった「安全の確保」では警備員の拡充や実行委員やボランティアを要警戒場所へ配置した。「交通渋滞の回避」については、駐車場の確保やシャトルバスの運行を通じて渋滞を回避できた。

一方、課題については実行委員やボランティアの声を集約して、それを担当班（総務班、設営班、ボランティア班、ステージ班、警備班、駐車場班、出店（展）班、救護班、広報班）別にまとめた。次年度に向けた課題として取り組んでいきたい。このイベントは、若手の実行委員や多くの大学生やボランティアスタッフに支えられている。この若い力、リーダーを育成し今後より一層飛躍したイベントとなるよう頑張っていきたい。



6 今後の展望

本イベントが沢山の人の手で計画・実施される幅広い年齢層による手づくりの地域に根差した市民参加型のイベントとして成長してきている。来年度は地域住民・企業・大学生に加え、高校生や中学生を巻き込んだイベントとなるよう進めていきたい。内容的には城山地区の歴史・文化そして豊かな自然を紹介し、「みんなで盆踊り」では、昨年度の参加者が250人程度であったが、将来的には500人規模の参加者となるよう自治会の協力をいただき推進していきたい。他イベントと差別化することによって特徴のあるイベントとして成長し、遠距離からの来場者も行ってみたいと思うような内容にチャレンジしていきたい。



事業名：阿津さくら保全・活性化事業

相模湖地区

団体名：阿津さくら自然を守る会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

人口減少や高齢化、若年層の流出などの社会的な要因が影響していることもあるが、これに伴う地域におけるコミュニティの結束力の低下を懸念している。住民同士の交流が減少していることで、地域の活性化が阻まれ、地域資源が有効活用されていない現状があり、このような状況を打破するためには、諸先輩方が植林した桜などの地域の自然特性を活かした、皆が参加できる取り組みを推進することが必要と考える。



2 事業の目的



平成14年ごろから植樹が始まった、阿津川から相模湖林間公園の入口付近までの約800mの間にわたって植えられた、約250本の河津桜を活用したイベントを開催するなど、阿津地区の魅力を発信するプロモーション活動を行い、地域の活性化を目指す。

3 事業の実績

令和8年3月21日(土)に「阿津さくらまつり」をさがみ湖リフレッシュセンターの「いきいきフェスティバル」と同時に開催し、地域の方をはじめ内外から多くの参加をいただき、河津桜の景観やイベントで楽しい時間を過ごしていただけた。

4 事業の成果

さくらまつりといきいきフェスティバルを同時に開催したことで、様々な方に地域の魅力である河津桜のPRができたと思う。また、住民同士の情報交換や交流の場となっており、地域の活性化に貢献できたと感じている。

5 事業実施団体による自己評価





地域の諸先輩方が植林した河津桜を有効に活用した祭りを企画・実施したことにより、下草刈りや選定など準備段階から地域の多くの方の参加につながり、コミュニティの結束力が向上したと考える。

6 今後の展望

河津桜の保全やさくらまつりなどの活動は、環境の保全やシビックプライドの醸成につながることから、今後も事業を継続して行きたい。また、自治会やさがみ湖リフレッシュセンター等と更なる相互協力を図り、阿津の桜を地域住民だけでなく市内外に向け、情報発信していきたい。



事業名：小原地区元気いっぱい花いっぱい環境整備

相模湖地区

事業

団体名：小原草木会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

各地に甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風により、地域の心の拠り所・憩いの場である小原地区の八幡神社の階段が全面的に崩落し、地域住民にとっては暗い影を落としたが、令和6年11月に地域一丸の努力により階段修復工事が完了した。この復興を契機に、相模湖と小仏城山や高尾山を繋ぐハイキングコースの一部でもある、小原本陣を核とした小原宿の魅力を最大限に引き出すべく、小原地区周辺の環境整備を望む声が地域で高まっている。

2 事業の目的

上記の状況から、地域自治会総意のもと地域の有志を募って「小原草木会」を立ち上げ、小原地区の環境を整備することで、地域住民が明るく・元気になるとともに、ハイカーや小原宿を訪れる観光客の観光スポットになることにより、地域が活性化することを目的とするものである。また、現在小原で進めている、中山間地域振興モデル地区の取組と併せた、魅力の創出・発信を行っていきたい。



3 事業の実績



前年の小原ふれあい広場の法面の整備に引き続き、小原地域の環境整備として、小原から孫山へ至る登山道の雑草木の伐採や、下草刈り、登山道の階段の修復を実施した。

4 事業の成果

登山道の雑草木の伐採や下草刈り、階段の修復などの整備により、高尾山や陣馬山からの



ハイカーがより多く小原地区に訪れることで、地域が活性化していくと考えている。

5 事業実施団体による自己評価

観光に資する事業であり、現在小原で進めている、中山間地域振興モデル地区の取組と併せた、魅力の創出・発信を進めていく一助となった。

6 今後の展望

小原地区は、小原宿本陣を中心とした観光（地域）資源の豊富な地区である。一方、少子高齢化が顕著であり、津久井地域（津久井、相模湖、藤野）の重要課題である中山間地域対策を進めて行くうえでも、魅力ある街づくり、住んでみたい街づくり等が欠かせない地域である。そこで、小原自治会総意のもと、地域の魅力向上の一步として地区内に住む協力可能なメンバーを中心に小原草木会を立ち上げ、先ずは、小原ふれあい広場周辺の環境整備を進める計画とした。今後は、これを皮切りに地域の関係団体などとも連携を図りながら、地域の担い手の育成に重点を置いて、小原地区の他の場所においても魅力向上アップに繋がる環境整備を順次進めて行きたいと考えている。



事業名：里山未来デザインプロジェクト@石老山

相模湖地区

団体名：自然バカの会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

相模湖地区には数多くの河川や山々などの自然が残されているが、これらは地域の貴重な共同財産であり、我々の祖先が代々受け継いできた「人と人」「人と自然」「世代と世代」の関係性を繋ぐフィールド『里山』がそこには存在していた。現在、相模湖地区に限らず、相模原市全域の『里山』は崩壊しつつある。これらの問題を解決するための課題として、一番大切だと感じているのは、今の子どもや若者、40～50代の中年層の世代の「自然の中で体験の不足」である。これにより地域の人々の孤立化、公共的な活動の担い手不足や参加への意欲の低下など相模湖地区のまちづくりに関わるあらゆる課題にも影響が及んでいくと考え、「石老山」をフィールドにして相模湖地区の『里山』再生活動を企画するに至った。

2 事業の目的

上記の課題を解決するためには、まず自然環境の再生や「①里山再生」が必要と考える。経験豊富な高齢者から緑地の管理や手仕事について学び・教わりながら共同作業で行っていく、「人と人」「人と自然」「世代と世代」を繋ぐ里山を復活させることを目的とする。『里山再生』によって、「人と人」「人と自然」「世代と世代」が関わり合う機会や場が創出され、子どもや若者たちをはじめ、人々の「②『情緒』『音楽的・身体的コミュニケーション力』が磨かれる」ことが2つ目の目的である。3つ目の目的として、参加者や住民同士の共同作業やイベント・祭りを通じ、お互いにコミュニケーションを取り合い、助け合う「温かい空間を作り出す」ことで、地域の子どもの若者、中年層の人たちが安心、かつ自由に、主体的に行動ができるようになる。将来の夢を思い描きながら、「③若者たちが社会へ『自信』をもって飛び出していく力を育む」ことを目的とする。4つ目に、『里山再生』が「人と自然」「世代と世代」の関わり合いを再生させ、『自然への畏敬の念』や『世代間の信頼関係』が再構築されることで、「④自然『循環』を次世代へと繋ぐ」ことができる。

3 事業の実績

石老山の麓の地元の方から開放していただいた山で、自然農の野菜づくりや東屋づくりを参加者で行った。

- ・講師に農具などの使い方を学び、篠竹などを除伐し、落ち葉を集めた堆肥づくりなどの土づくりを行い、野菜の種撒きや陸稲の作付けを実施した。

- ・東屋を建てる計画の場所の篠竹の除伐や杉檜の間伐を行い、整地作業を実施した。間伐した木材は、東屋の材料として皮むきや板引きを実施した。

- ・地元に活動されている「蕎麦づくり友の会」を講師に招き、地元の郷土料理を作り、地元に音楽活動をしている方のコンサートを開催した。



4 事業の成果



【学びの場・機会の創出】

参加者は、世代や地域を越えて、幼児から80代まで、地元寸沢嵐に住んでいる方から、遠方は国上市や川崎市在住の方が活動に参加している。間伐や篠竹・低木の除伐作業が少しずつ進み、うっそうとしていた石老山の麓の森が徐々に明るく風通しの良い環境へと様変わりし始めている。講師が木の一生や種類について参加者に説明をしたり、畑では石老山にある資材を活かした循環型の土づくりを教わる。参加者が少しずつ増え、イベントの際は30名程度の参加があった。会員は当初の6名から現在は10名となった。

【材を活かす場・機会の創出】

間伐した木を活かした椅子を作る体験、薪割り体験を実施し、地産地消による循環型の暮らし方や自然素材によるモノづくりの素晴らしさ・喜びを参加者たちと分かち合った。森林を活かす暮らし方を考え、行動するメンバーも出てきている。

【繋がり場の創出】

世代や地域を超えた広い繋がりの中で、皆で知恵を出し合い、協力し合い、活動や地域のイベントを行った。相模湖地区や石老山の自然や過疎化の問題、森林の荒廃についての課題解決の道を切り開いていく道筋を皆で考え、話し合った。地域の自治会や団体「そばづくり友の会」と連携し、「蕎麦まんじゅうづくり」や「にごみうどん&白蓮のお話会」などを開催。地元の住民との交流を深めた。「人と人」「人と生き物」、「世代と世代」の繋がりが、活動内だけでなく活動外でも少しずつであるが広がっており、若者や子どもたちが豊かな人間形成が出来るフィールドや、機会の場づくりが出来てきていると感じる。

5 事業実施団体による自己評価

この1年の里山活動によって、石老山の麓の暗く風通しの悪い森林が、明るく風通しのよい環境へと変わってきた。「私たち地域住民や市民の手で、石老山を明るく豊かな森林に戻していくことで、子どもたちが再び縦横無尽に飛び回れる遊び場を再生したい。また、地域の人々の暮らしが彩り豊かになり、心身共に癒され、人々が集いたくなる環境にしたい。」そんな目的をもって会の仲間と活動が続けてきた。活動を通じて、私たちメンバーも自然の中で遊び、学び、様々な経験を積むことができ、豊かな情緒を育むことが出来ていると感じる。「木々や草花、虫、動物たちが美しい」「風に揺られる枝葉の動きの趣」「みんなで力を合わせて木を伐ったり、引っ張った



ときの一体感や喜び」など、自然の中で培われる感性や情緒をこれからの子どもたちや若者にも大切にしてもらいたい。さらに、今年度の大きな収穫は、活動を通じて出逢った人との繋がりである。活動のメンバーは、自然への関心と目的を共有し、『自然との調和の暮らし』を目指している人たちが集まる。『自然との調和の暮らし』を目指すには、人と人同士の「持ちつ持たれつの関係性」が欠かせないと感じる。活動をスタートしてから、ここに目線が合う人たちが少しずつ増え、繋がりや輪が広がっている実感がある。今後も里山管理活動を継続していく中で、石老山を「人との繋がりづくりの場」として地域の方々と共に活かしていくことを進めていきたい。

6 今後の展望

「①地域の人々の温もりがより感じられる機会や場の創出」及び「②相模湖地区の伝統文化に触れる機会や場の創出」を促進していく。「①地域の人々の温もりがより感じられる機会や場の創出」の事業は、地域の障害者や高齢者など心身にハンディがある方も参加しやすい活動やイベントなどを開催していきたい。ハンディのある方に寄り添う活動やイベントの開催は、地域住民全体が安心して暮らせるまちづくりにも繋がり、この地域の若者が『自信』をもって未来を切り開いていく力を育むフィールドにもなる。地域からの愛をたっぷり受けた子どもや若者、中年層はこの相模湖地区に興味・関心をもち、将来的には、自治会への加入促進や地域における公共的な活動の担い手・公共的な活動への参加者増加も見込めると考える。

「②相模湖地区の地場の材や伝統文化に触れる機会、場の創出」に関しては、地域住民や地元の市民団体、自治会などに依頼をし、石老山をフィールドとして地場の材を使った手仕事を学び合い体験する場や、地域の伝統文化を学ぶ場や機会を作る。春は、お花見や植樹、筍掘り。夏は、森林の中で夕涼み、子どもたちと自然体験。秋は、焼き芋、クラフトづくり、木登り。冬は、間伐、薪割り。他団体や自治会と連携した催し物などを企画する。



事業名：藤野地区自治会活動啓発事業

藤野地区

団体名：藤野地区自治会連合会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

- ・藤野地区の自治会（50自治会）加入率は市内最高であるが、役員への負担や、経済的な負担等により脱会する世帯もあり、加入率が減少傾向にある。
- ・地域防犯上、自治会員が活動していると明確にすることで、地域住民に安心感を与える必要がある。
- ・道路沿いでの作業や、刈払機を使用した作業において、車両や周囲の人との衝突事故などの危険リスクが高い。

2 事業の目的

- ・自治会名称等を入れたビブスを着用して、美化キャンペーン等の自治会活動を行うことで、自治会に加入されていない世帯に向け、地域の一体感や団結力をアピールすることで、自治会加入促進に繋げる。
- ・反射材や蛍光色を使用したビブスを着用して活動することで、道路沿いや、暗い場所、悪天候時でも高い視認性を発揮し、安全性を高めることができる。

3 事業の実績

自治会名称等を入れたビブスを各自治会に配布し、自治会活動のPRや、作業中の事故防止に役立てた。



4 事業の成果

自治会活動でビブスを着用することにより、地域住民に自治会活動を知ってもらい、周知、理解してもらうことができた。



5 事業実施団体による自己評価

- ・自治会名称等を入れたビブスを着て、自治会活動を行うことで、地域の一体感や団結力をアピールすることができた。
- ・反射材や蛍光色を使用したビブスを着て活動することで、道路沿いや、暗い場所、悪天候時でも高い視認性を発揮し、安全性を高めることができた。

6 今後の展望

引き続き、自治会活動に着用し、自治会活動のPRと作業中の事故防止に役立てる。



事業名：藤野の谷洗い

藤野地区

団体名：藤野まちづくり会議 環境部会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

少子高齢化に伴い、河川整備を担う人手が不足し、河川や河原の植生が過剰に繁茂している。かつて川遊びが可能だった場所も、植生の繁茂により人が立ち入ることが難しくなり、子どもや地域住民にとっての自然な遊び場が減少している。

一方で、支流では大雨時に流入する土砂や倒木・倒竹が堆積し、水の流れを阻害している。これにより、地表水と地下水の流動が滞り、適切な水の浸透が妨げられている。

また、地下水の滞留が地盤の不安定化を引き起こし、大雨や地震時に斜面崩壊（土砂災害）が発生するリスクが高まっている。



2 事業の目的

- ・河川の景観と環境を改善し、地域住民が自然に触れる場を再生する。
- ・河川の流路を適切に整え、水質改善や生態系の多様性を促進することで、自然環境の回復を図る。
- ・堆積物の適切な管理を行い、地表水と地下水の流動を改善することで、土砂災害リスクの低減に努める。

3 事業の実績

【実施日】

令和7年12月6日

沼田原の湧水地、ならびに周辺の沢3箇所

令和8年3月28日

沼田原の湧水地、ならびに秋への沢3ヶ所、沢井川の支流1ヶ所

【実施内容】

川の堆積物除去、表層水脈整備、U字側溝の詰まり除去



4 事業の成果

上流部では土砂の堆積により水脈が阻害され、地中に滞留した水が斜面から流出すること



で、斜面崩壊を助長する状態となっていた。今回、堆積物を除去して沢の流れを回復させたことで、沢周辺において複数箇所の湧水も確認され、斜面崩壊の抑制に一定の効果があつたと考えた。また、沢の水音が戻り、周辺景観も改善された。住民の方からも「きれいになった。今後も無理のない範囲で頑張してほしい。」との声をいただき、地域環境の保全に資する取組として評価を得ることができた。

5 事業実施団体による自己評価

本事業により、地域で「お不動さん」と呼ばれ、これまで一度も水が枯れたことのない重要な湧水地の整備を行うことができた。3月の整備では、砂防ダムに土砂が大きく堆積し、沢の水が地中に沈み込んでいる状況を確認したため、表層水脈の整備を実施した。今後も定期的な状態観察と維持管理を継続していく予定である。地域の方々に改善の様子を実感していただけたこと、本作業に地域内外の人々が関わったことなどにより、関係人口の増加にも繋がり、来年度以降も継続的に活動していくうえで、大きな成果であつたと考えた。

6 今後の展望

- ・藤野地区南部の本流・支流へ整備範囲を拡大し、河川環境の改善を推進する。
- ・既に整備を実施している各地区の団体や、該当エリアの自治会と連携・協業し、整備活動の継続的な実施を図る。
- ・相模原市中央区・南区の行政担当者や地域団体の関係者を招き、水源および生態系保全の重要性を啓発し、持続可能な整備手法の普及を促進する。
- ・地域内外の関係人口を増やし、担い手の発掘・育成を強化することで、事業の継続性を確保する。



事業名：FUJINO BAMBOORIUM

藤野地区

団体名：藤野商工会青年部

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

藤野地域では放置竹林による竹害が深刻な状況である。竹害による土壌への影響や景観の悪化、または伸びきった竹が倒れる事により電線や道路への被害なども懸念される。この課題を解決するには、藤野商工会青年部が中心となり地域住民との連携を図り、地域全体で取り組んで行くことが必要である。



2 事業の目的

- ・放置竹林を有効活用し地域資源へと昇華させる。また、地域住民の郷土愛を育み地域への帰属意識を高める。
- ・地域資源を活用した竹灯りを作成、七夕祭りを実施し、藤野地域を対外へアピールする。

3 事業の実績

- ・放置竹林の伐採、運搬。竹灯りの制作。
- ・竹灯りで藤野駅周辺のライトアップを行った。
- ・7月6日（日）には点灯式をステージや飲食ブースを設けた上で実施した。



4 事業の成果

藤野地域で課題となっている放置竹林を有効活用することで、地域資源へと昇華させることを目標として活動した。

竹林の伐採は青年部委員で実施し、竹灯りの制作は藤野中学生や、地元住民、JRなどと協



力し制作した。

点灯式では地域飲食店のブースを設け、地域内外に広く PR することができた。ステージ部門でも地域活動団体に参加いただき、発表の場を手協することができた。SNS を活用することにより、地域外からの人も多く地域活性化につながった。

5 事業実施団体による自己評価

放置竹林を地域資源へ活用するため、初めてのことであったが大きな反響を得ることができた。青年部のみならず地域全体を巻き込み展開できたため新たな地域内での交流が生まれ、目標に対する効果が得られたと感じている。地域の商工業の後継者である青年部が、一丸となり活動したことにより、今後の地域の活性化、商工業の担い手の育成になったと思われる。今後もこの事業を継続し、より良いイベント作りに努めたい。

6 今後の展望

より多くの方々に藤野地域の魅力を伝えられることが出来れば、藤野地域のさらなる活性化に繋がると考える。また、旅行会社、大学、メディアや他団体と連携していきたい。



事業名：FUJINO コミュニティ・フォト・

藤野地区

プロジェクト

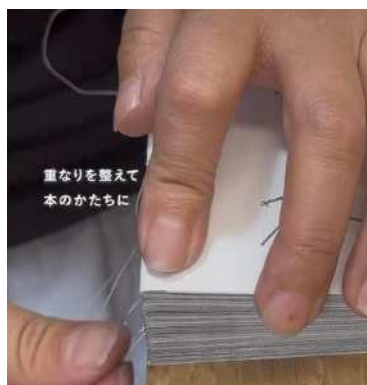
団体名：FUJINO コミュニティ・フォトプロジェクト

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

共同代表であるフォトグラファーの橋本ヴィカが、外国人居住者として地域の幅広い住民から温かく受け入れてもらえた自身の体験から、多様で寛容な藤野のコミュニティの魅力や人々の“豊かな”生活風景／スタイルについて、写真媒体を通じて切り取り、より多くの人に伝えることができればと考えた。



2 事業の目的



特定のテーマに沿ったフォト・プロジェクトの実施を通じて、地域の人々がつながり、絆を深めることを目指す。また、視覚的に伝わりやすい写真の特性を活かし、SNS や写真集製作・発行を通じて当該地域の魅力をより多くの人に伝える。この地域に暮らす人々のありのままの生活風景を収めることで、地域や住民の記憶や文化を共有し未来へと伝える。

3 事業の実績

事業開始2年目となる本年度は、初年度に実施した取材・撮影をもとに、藤野地域における生活文化をテーマとした写真プロジェクト「Everyday rice（日常のお米）」の編集・デザイン・製本作業を行った。地域住民へのインタビューおよびフィルム撮影素材をもとに、いずれも藤野を拠点に活動する編集者、デザイナー、製本家と協働し、写真集のプロトタイプを制作した。制作作業に重点を置きつつ、10月のぐるっと篠原お散歩展への参加や、まちづくりセンターロビーにおける完成データを用いたスライドショーの実施などを通じて、制作過程および成果物を地域住民と共有した。



4 事業の成果

本事業は、藤野に長らく暮らす住民とお米との関わりをテーマに、聞き取りと写真表現を通じて生活文化を記録・可視化するものであり、これまでにない視点から日本および地域文化を捉える新たな取り組みとして高い公益性を有する。また、対話を通じた関係性の深化に加え、今後の写真集としての流通や展示、情報発信を通じて、地域の魅力発信にも貢献することが期待される。

5 事業実施団体による自己評価



本事業を通じて、地域住民との対話を重ねながら生活文化の記録と可視化に取り組むことができた。成果物である写真集のプロトタイプは、お米由来の紙やインクを使用し、デザインや製本においても独自性の高い作品となっており、一般読者のみならず感度の高い文化層にも関心を喚起し得る質を備えている。内容面においても、日常的な炊飯行為を切り口に個人の記憶や文化的背景を引き出し、これまでにない視点から地域文化への理解を深めるストーリーを創出することができた

と考える。一方で、成果のさらなる発信および活用については今後の課題であり、継続的な取り組みが求められる。

6 今後の展望

- ・2025年度—制作・編集、関連イベント・交流会の開催 一つのシリーズのプロトタイプを制作
- ・2026年度—2つめのシリーズのプロトタイプ制作、写真集の発行に向けた活動、展覧会等関連イベントの実施（藤野地域内及び東京都内）
- ・情報発信等のコミュニケーションは随時展開



事業名：藤野お惣菜地美恵

藤野地区

団体名：藤野お惣菜地美恵

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

- ・ 藤野地区の野菜の宣伝をすること
- ・ 藤野地区以外で地産の野菜が消費されていること
- ・ 近年獣肉が畜肉より健康に良いとのブームで人気があるが、高い確率で食中毒の危険性を持っていること



2 事業の目的

- ・ 藤野地区で栽培された野菜また季節に採れる山菜等を活用し、獣肉と一緒に料理することで、地産地消を目指し拡販する。また、将来的にはジビエも地産地消を目指す。
- ※他では既に藤野で捕獲された鹿を合法的に使用している方もいる。
- ・ 神奈川県猟友会津久井支部、相模原市、JA 神奈川つくいに協力を求め、確認し、新たなジビエ開発に協力を目指し地域活性化に貢献する。
 - ・ 料理教室で獣肉の怖さを厚労省のガイドラインに沿って安全な調理を習得する事で食中毒の未然防止を図る。

3 事業の実績

藤野中央公民館にて地域住民を対象に1回12名程度の料理教室を年間4回程度開催した。相模原市の催事（ゆめくらぶ桂寿、夏祭り等）に参加し、地美恵料理（地元の野菜、キノコ、獣肉、小麦粉等）を提供した。また、ピザ窯等の貸出をおこない、料理（地美恵）のバリエーションを広げてもらう。



4 事業の成果

料理教室について、参加者のほとんどが本市在住の方であった。藤野地区だけではなく、橋本地区からの参加もあり昨年度より地域が広がった。昨年度における料理教室の受講者は、



令和7年度 緑区 地域活性化事業交付金 活用事例

2回で累計21人、普及活動は6回で184名であり、安全に食す知識を料理研究家により体験していただく機会を設けられた。地元のお祭り等にも参加した事で藤野お惣菜地美恵の取り組みをより多くの方々に地産地消の取り組みを理解していただいた。地元の食材（野菜、肉等）を使う地産地消の意義を理解し実行しようとする意識が高まったと考えた。

5 事業実施団体による自己評価



LINE 広報、地元回覧板で募集し、締め切り前に定員一杯となり好評であった。補助金を活用してホームページも作り広報の手段が広がっていると感じた。また、子供会や老人会にピザ釜を貸出してピザを自分達で作り、活用した。料理教室に必要な機材を購入した事により、レシピの幅が広がり、自分達で積極的に地美恵を使用するようになったことを実感した。



6 今後の展望

現在は名倉、日連地区がメインであるが、自治会回覧板にて小湊、佐野川、吉野、与瀬と拡大して行く。



事業名：赤沢環境整備プロジェクト

藤野地区

団体名：上野久保 杜を守る会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

赤沢周辺の山や沢は、長年整備されず、さらに2019年の台風19号で何箇所もの斜面の崩落があったことで、沢が塞がって全体の循環が滞り、斜面も乾燥、樹木の倒木も増えて沢に積もり、かなり荒れた状態になっていた。また、赤沢の登山道入り口付近は、急な下りの山道に階段が無く、下る際に滑り、危険で歩くのが難しい状態になってしまった。

地域でもこのままでは、沢に積もった倒木が県道下の暗渠を塞ぐのではないかと、また斜面が崩れるのではないかなど、災害への心配の声があった。また、登山や地域で散歩される方が山に再び安全に入れるように階段を整備したい、山や沢の状態を健全な状態に戻したいなどの声も上がり、令和5年1月から上野久保住民有志が中心となって林業や森の再生活動をする方々に協力を仰ぎながら、このプロジェクトを始めてきた。

2年間続けてきたことで、沢内の大規模な崩落箇所も修復が進み、自然の力を利用しながら安定した斜面を取り戻しつつある。森への入り口に関しても、階段を整備したことで、より安全に通っていただけるようになり、定期的にメンテナンスも行っている。

また、沢の倒木を取り除くことで、枯れることが多かった沢も流れを取り戻しつつある。さらに、藪化した箇所も整備し、風の通りが良くなり、気持ちの良い森になっている。

少しずつ作業することで、確実に森全体の状態が良くなっていくことを実感しており、今後も作業を継続していきたい。

2 事業の目的

- ・赤沢、上野久保地域の森、山、沢が、安全で、健全な状態を取り戻す。
- ・赤沢の森に入る方が増え、近隣の方の散歩や、近隣の山から歩くハイカーの行き来も増え、森の豊かさを享受していただくことができる。



令和7年度 緑区 地域活性化事業交付金 活用事例

- ・作業に参加してくださる方が、小さな道具を使ってできる整備の仕方を身につけて自分の身の回りの環境でその技術を生かしてもらう。
- ・トランジション藤野1day ツアーなどで、藤野に興味のある方、地域活動を始めるとに興味がある方に森を案内し活動を紹介することで、地域活動始めるためのモチベーションに繋げてもらう。



3 事業の実績

活動を開始して3年目、月2回の活動を継続して実施した。春には赤沢の住宅側斜面、2019年に崩落した斜面にある県の工事跡脇に階段を作った。これにより、地域の方が崩落斜面上部の森、コンクリート枠上へアクセスがしやすくなった。（※工事終了後は地域で管理が必要。）

また、日連アルプスのティラノサウルスルートに赤沢の森が含まれるため、ハイカーが増加した。歩きやすい状態を維持するため、山道や階段の整備もより頻繁に行った。

11月には企業研修の一環でボランティアの受け入れをし、台風19号による被害の状況や森の状態などを説明し、作業も体験していただいた。（※令和8年度も継続予定）

通常の作業では、乾燥などにより崩れやすくなって斜面で継続して手入れを行って来たことで、水も浸透しやすくなり、斜面に植物が生え始め、安定し始めたところが多く見られた。

沢の上の崩落斜面は、県の水源林推進課の許可を得た上で整備を行った。地主への返還前の最終の検査も無事に終了し、現状のまま継続して作業できるようになった。

4 事業の成果

今年度は、森の中や沢周辺、住宅側への階段づくり、地域住民・ハイカーの方々が多く通る山道の整備等を行ったことで、「歩きやすくしてくれて、また綺麗で気持ちの良い森にしてくれてありがとう。」など多くの方が声を掛けてくださった。

住宅側への階段づくりは、今後、崩落斜面（県による工事箇所）から上の森へのアクセスが良くなるため、工事終了後には整備を始めていく計画で、地域にとって安心に繋がる。企業研修でボランティアに来られた方々は、全員、森でのボランティアが初めてで、説明も熱心に聞き、森の状態について関心を持っていた。



5 事業実施団体による自己評価

この活動は、最初の2年間森の中での作業を中心に行ったが、今年度は地域の住宅地により密接した場所での作業や、藤野内外から多くの方が行き来するようになった山道、階段整



備をするなど、より外との繋がりがある場所での作業を行った。それは、森の状態を多くの方に知ってもらう機会にもなった。令和8年度も引き続き、沢周辺での作業だけでなく、多くの方が使われる山道や、上野久保の集落上部などでも作業していきたい。

6 今後の展望

- ・赤沢の森、沢周辺の整備を行い、森・山全体が自然循環できる、生物多様性豊かな森になっていくことを目指す。
- ・沢の整備を継続し、ほぼ枯れ沢になっている状態から水の流れを取り戻し、赤沢本来の赤い沢を復活させる。
- ・少しずつハイキングコースや、周辺の集落への繋がる道など、日連アルプス全体がより良い状態になっていくように、他団体と連携しながら整備を進める。



事業名：葛原集会所前休憩所改修工事

藤野地区

団体名：葛原有志の会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

葛原地区は、藤野園芸ランドをはじめ、市道沿いに野外環境彫刻が点在する芸術の道、気軽にハイキングが楽しめる低い山々、神奈川の銘木100選の正念寺のしだれ桜などがあり、四季を通して観光客に親しまれて、休日や行楽シーズンには、都心から約1時間で当地に来られることから多くの観光客が訪れている。

このような中、休憩所は経年劣化による腐食が激しく、観光客の利用に適さない状況となっていることから、去年は休憩所の鉄骨塗装替え、照明器具等の交換、シンクの浸透枳の設置を行い、今年は休憩所のテーブル、長イスを修繕、新調などを行いたい。



2 事業の目的

傷んだ休憩所を改修することにより、観光客等が安全、安心して利用できる環境を作り、この葛原地区にまた来ていただけるような空間としたい。

3 事業の実績



傷んだ休憩所のテーブル、イスを作り替えなど、改修が完了した。

4 事業の成果

今回、傷んだ休憩所を改修したことにより、観光客等が安全、安心して利用できるようになった。また、休憩所周辺的环境整備も行っていることから、またこの葛原地域に遊びに来ていただける空間が整った。

5 事業実施団体による自己評価



令和7年度 緑区 地域活性化事業交付金 活用事例

傷んだ休憩所の改修ができて、観光客等この施設を利用する方々が気持ちよく利用できる状態となり、大変良かった。

6 今後の展望

相模原市、市観光協会等が当地区の観光スポットをPRしていただいていることから、休憩所を改修することにより、清潔感が上がり地域の知名度が上がる。



事業名：しのばら園芸市

藤野地区

団体名：しのばら園芸市実行委員会

1 事業実施の背景や地域の現状と課題

里山、中山間地として長く人手が入らなかったことによる森林の荒廃、耕作放棄地の増加、それによる獣害、また地域に雇用がないための若者離れ、地域の高齢化、過疎化が進んでいる。

2 事業の目的

地域の森林資源を活かした商品開発、販売イベントの開催により、環境美化、都会からの人の呼び込み、観光資源・産業の創出などの地域活性化と次世代につなげる永続的な地域、環境づくり。

3 事業の実績

- ・4/26～4/27 第二回園芸市開催
- ・令和7年4月～令和8年3月
月1～2会場整備、定例ミーティング
- ・しのばら園芸市改めしのばらグリーンデイズ用の
ウェブページ及びチラシ制作、各種デザイン
- ・獣害環境対策として、会場整備にて耕作放棄地の
開拓、やぶの切り開き



4 事業の成果

- ・園芸市は2日間で入場者延べ600人
- ・篠原地区地域住民との協働作業、藤野地区内のものでづくり、飲食ビジネスを提供する人たちとの協働、連携。青山学院大学シビックマネジメントセンターとの協働、学生ボランティア受け入れ

5 事業実施団体による自己評価



概ね今年度予定していたことは実現達成できたかと思う。より多くの参加者が増えるようイベントを見直し、より良いイベントにしていきたい。





6 今後の展望

都市部のフラワー、グリーン、クラフト系の事業者との継続的な取引、受注を目指す。
また篠原地区内の活動団体・篠原の里、炭焼き部との連携、地域住民の賛同、合意を得ての活動できる森林フィールドの増加、資源の提供、活動への参加も目指す。



緑区地域活性化事業交付金 事業評価一覧表

【評価方法】

○評価者1名につき24点満点とし、評価者3名の場合72点満点とする

○評価者のうち1人1項目でも0点がある場合はC評価とする

○得点による3段階評価

評価者数	3名	4名	5名
A評価	65点～72点	87点～96点	108点～120点
B評価	29点～64点	39点～86点	49点～107点
C評価(交付終了)	0点～28点	0点～38点	0点～48点

NO	地区	事業名	団体名	継続年数	評価者	公共性	妥当性	継続性・自立性	波及性・発展性	目標設定	地域性・独自性	合計点	評価	総括コメント
1	橋本	コミュニティカフェ(地域食堂)	かまどカフェ	3	3人	12	11	11	9	10	10	63	B	地域の集いの場としてコミュニティカフェを運営して3年目となり、参加者も増えており、メニューも新たなものを取り入れるなど安定的な運営もできていることから、地域の活性化に寄与している。
2	橋本	おもちゃの広場による多世代交流	おもちゃの広場はしもと	3	3人	11	11	7	7	9	9	54	B	活性化交付金を利用して多世代交流を目的に活動を続けており、地道な活動を通じて少しずつでも参加者が増えてきていることは、地域の活性化に寄与している。
3	橋本	福祉カーニバルin橋本	福祉カーニバルin橋本実行委員会	2	3人	9	9	7	9	9	11	54	B	2年目の開催となりイベント来場者の増えてきており、地域に認知されていることは大いに評価できる。また地域の福祉サービス事業者など公共的な活動団体間の連携強化が図れており、地域の活性化に寄与している。
4	橋本	健康づくり普及活動運動	健康づくり普及活動同好会	2	3人	11	10	7	7	11	9	55	B	認知症予防、介護予防を目的に活動を始め、自治会の協力も得ながら、1年目から多くの参加者で活動できていることは、地域の活性化に寄与している。
5	橋本	はしもとクリーンマップ作成事業	橋本地区まちづくり会議 街の環境美化グループ	1	3人	9	11	7	7	11	10	55	B	橋本地区まちづくり会議の課題解決に向けた取り組みであり、橋本クリーンマップの作成により、地域で活動している団体の周知により、自治会加入促進、仲間づくりに寄与している。
6	橋本	自転車マナー啓発事業	橋本地区まちづくり会議 自転車マナー向上グループ	1	3人	11	10	7	7	11	9	55	B	橋本地区まちづくり会議の課題解決に向けた取り組みであり、自転車マナー啓発ポスターの作成により、地域住民への法改正の周知や交通安全意識の向上に寄与している。
7	大沢	大沢地区自治会加入促進事業	大沢地区自治会連合会	1	3人	9	7	6	6	4	6	38	B	地域課題を的確に捉え、自治会長が中心となり意見を交換し地域全体で取り組んだ点や、この事業を通じて自治会加入促進への問題意識が高まったことは評価できる。加入率向上は容易でないが今後、横断幕やイベントでのPR活動を継続し、地域一丸で啓発を進めることを期待したい。

NO	地区	事業名	団体名	継続年数	評価者	公共性	妥当性	継続性・自立性	波及性・発展性	目標設定	地域性・独自性	合計点	評価	総括コメント
8	城山	しろやま土曜寺子屋活動	しろやま土曜寺子屋実行委員会	2	3人	9	8	6	8	8	8	47	B	全般を通して、「楽しく学習することができている」、「毎週楽しみにしている」という子どもたちの声もあること、また、参観に来る保護者がいることやボランティアも定着してきていることなど、寺子屋という存在が地域に広まってきたと感じられることから、一定の成果があったものと思われる。次年度も引き続き、事業目標の達成に向けた取組をさらに進めていただくとともに、3年目となることから、今後の事業継続も視野に入れ、事業資金調達の方法を検討いただくなど、今後の取組に期待したい。
9	城山	SHIROYAMA NATURE PROJECT	SHIROYAMA NATURE PROJECT	1	3人	7	7	7	7	7	8	43	B	地区内にある「GAYAGAYA」という宿泊施設でワークショップを行うこと、また、観光スポットを紹介するパンフレットを作成、配布することで、宿泊者が地区内のスポットを訪れるなど、地域をアピールするという目的について、一定の成果が得られたものと考え。次年度は、城山観光協会や地域との連携を強化し、目標を達成できるよう、さらに取組を進めていただきたいと思っている。
10	城山	みんなの津久井湖夏祭り	みんなの津久井湖夏祭り実行委員会	3	3人	11	9	11	12	10	10	63	B	祭自体4回目ということもあり、着実に事業運営ができているものと考え。自己資金についても協賛金を集める、クラウドファンディングを行うなど、自走するための足がかりも作られており、「城山地区の祭」として定着しつつあると感じる。今後も、地域コミュニティー強化の一助として、若い世代の担い手が増え、充実していくことに期待するとともに、城山地区の観光振興及び知名度向上につなげていただきたいと思う。
11	城山	あつまれ～しろやまっこ！	城山地区まちづくり会議 子どもたちの主体性を育む地域づくり部会	3	3人	9	8	6	9	7	11	50	B	申込不要というスタイルを取ったことで、モルックというスポーツを通じて、未就園児から高齢者までという幅広い世代との交流が行われていた。また、高校生や大学生が準備から参加しており、大人よりも年の近い世代と交流することにより、参加した子どもたちは、各チームごとに役割分担し、積極的に行動するなど、一定の成果があったと思われる。次年度は、3年目ということから、連携・共催という形を取りながら、新たな団体へ運営を移行し、事業を継続していけるよう、引き続き取組を進めていただきたい。
12	相模湖	阿津さくら保全・活性化事業	阿津さくら自然を守る会	1	3人	10	9	9	8	11	10	57	B	河津桜は地域の財産であり、これを活用した事業は地域のコミュニティの繋がりがや魅力発信など活性化に寄与している。

NO	地区	事業名	団体名	継続年数	評価者	公共性	妥当性	継続性・自立性	波及性・発展性	目標設定	地域性・独自性	合計点	評価	総括コメント
13	相模湖	小原地区元気いっぱい花いっぱい環境整備事業	小原草木会	2	3人	11	10	8	8	10	11	58	B	中山間地域振興モデル地区の取組と併せた、魅力の創出・発信を進めていく事業であり、地域の観光資源の質の向上が図られている。
14	相模湖	里山未来デザインプロジェクト@石老山	自然バカの会	1	3人	6	6	4	7	9	9	41	B	世代や地域を超えた様々な方々が共同で作業することで、荒廃した里山をあるべき姿にという取組みが中山間地域には必要であると共通の認識が図られたとは今後に繋がると評価できる。
15	藤野	FUJINOコミュニティ・フォト・プロジェクト	FUJINOコミュニティ・フォト・プロジェクト	2	3人	6	5	5	4	6	6	32	B	取材した地域住民と交流をすることにより、素の姿を撮影できている。藤野地域や伝統を写真に残し、地域のイベントや藤野総合事務所で展示することにより、多くの方に藤野地区の食の文化を知ってもらえることは評価できる。
16	藤野	藤野お惣菜地美恵	藤野お惣菜地美恵	2	3人	7	6	8	6	6	6	39	B	栄養価が豊富なジビエを食肉としての活用、安全性を学びながら活動している。老人会や子供会での普及活動を行うなど、地域住民の参加者も多く評価できる。
17	藤野	葛原地域環境整備事業	葛原有志の会	3	3人	5	5	6	5	6	6	33	B	地域住民や来訪者が利用していた休憩所が老朽化しており、修繕が必要であったが、テーブル、イスを作り替えたことにより、より安心して利用できる休憩所となった。 また、休憩所周辺環境を整備することで、葛原地域が安心して訪れられる空間となったことは、当会の活動の実績と考える。
18	藤野	赤沢環境整備プロジェクト	上野久保 杜を守る会	3	3人	9	9	6	6	9	9	48	B	この活動により、崩落斜面の修復だけでなく、沢の整備等を行い、水の浸透の変化や植物が育つなど、森の環境が改善されていることは大変評価できる。企業の参加もあり、会員以外のボランティアの参加による活動を目指して欲しい。
19	藤野	しのばら園芸市	しのばら園芸市実行委員会	3	3人	9	9	9	7	9	8	51	B	SNSによる情報発信により、市外からのイベント参加者が増えており、地域のPRに繋がっている。また、地域及び大学生と連携し、環境整備活動等を行っていることは評価できる。
20	藤野	FUJINO BAMBOORIUM	藤野商工会青年部	1	3人	9	7	9	8	6	9	48	B	地域で問題となっている放置竹林の整備をするとともに、切った竹で、藤野中学校生徒や、地元住民など地域と交流しながら竹灯り制作したことは評価できる。 藤野駅前を中心に竹灯りを飾り、イベントをおこなったことにより、多くの市内外の人の目に触れ、地域活性に繋がった。

NO	地区	事業名	団体名	継続 年数	評価者	公共性	妥当性	継続性 ・自立性	波及性 ・発展性	目標 設定	地域性 ・独自性	合計点	評価	総括コメント
21	藤野	藤野の谷洗い	藤野まちづくり 会議環境部会	1	3人	9	8	8	7	6	8	46	B	湧水地周辺の土砂や蓄積物の除去作業により、水量を回復させてことや、側溝やその周辺の水はけを良くしたことは評価できる。住民からも取組に対し、評価があり、今後は地元自治会と連携した作業や活動することが望ましい。
22	藤野	藤野地区自治会活動 啓発事業	藤野地区自治 会連合会	1	3人	6	7	6	7	7	6	39	B	ゴミ拾いなど、何気ない自治会活動においても、ビブスを着て作業することにより、地域住民に自治会活動を知ってもらい、自治会加入促進に繋がっていると思われる。また、オレンジ色の蛍光色のビブスを着ることで、道路沿いや、暗い場所での安全に作業できると思われる。



令和 7 年度実施

緑区地域活性化事業交付金活用事例集

編 集

緑区各まちづくりセンター

発 行

相模原市 緑区役所 地域振興課

相模原市緑区西橋本 5－3－2 1

電話 042-775-8801